

震災から2年： 再生可能エネルギーの創成と 地域の土と水の再生に向けて

東日本大震災から2年を経過しようとしている今、**再生可能エネルギー**（バイオマス、太陽光、太陽熱、水力、風力、地熱など）が注目されています。**再生可能エネルギー**は、持続可能であるばかりではなく、**地球温暖化の抑制**に効果的で循環型社会の構築にも寄与します。とくに、作物由来の**バイオ燃料**は、**被災農耕地の再生**に寄与するとともに、**耕作放棄地の解消**や**エネルギーの安定供給**などに貢献します。本シンポジウムでは、**再生可能エネルギー**とくに**バイオ燃料**に注目し、**バイオ燃料**作物の栽培や**バイオ燃料**の生産と活用、それを取りまく社会環境、将来展望について議論します。

参加費無料
登録無料

2013年
3月22日(金)
13:30~17:00

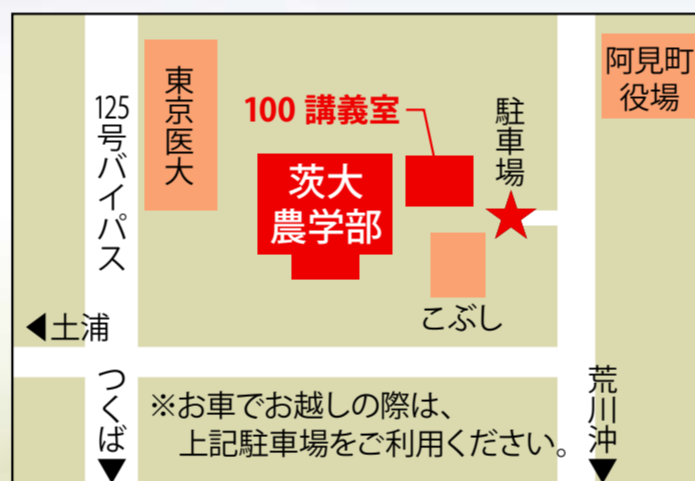


場所：茨城大学農学部

100番講義室

主催：茨城大学

後援：阿見町



プログラム

ご挨拶

阿見町長 天田 富司男
茨城大学農学部長 太田 寛行

講演

- ① バイオ燃料生産の動向および
茨城大学バイオ燃料社会プロジェクトの活動
茨城大学 塩津 文隆
- ② 津波被災農地でのスイートソルガム栽培による
環境修復の試み
宮城大学 中村 聡
- ③ 総合評価から見た再生可能エネルギー
茨城大学 内田 晋
- ④ 放射性物質による農地と農産物汚染
宮城大学 木村 和彦
- ⑤ 阿見町の放射能対策について
阿見町 中村 政人

総合討論



お問い合わせ
茨城大学農学部 塩津
Tel. 029-888-8556